



廿日市市

令和7年12月

Vol.27

## 地域学校協働活動 & コミュニティ・スクール だより

今回は、金剛寺小学校（金剛寺っ子応援団）と七尾中学校（七王応援団）の地域学校協働活動で特に、児童の学びを支え、深めている活動を紹介いたします。

### 金剛寺小学校の総合的な学習の時間

金剛寺小学校は「マイプラン学習」に取り組んでいます。自分で目標や計画を立て、様々な形で学びを深める学習です。学習の個性化を進めながら展開する総合的な学習は、その代表的な学び方であり、学びを創るために金剛寺っ子応援団の方々との協働も欠かせません。

「ふるさと串戸への愛着を育てる」という一貫した目標のもと、担当教員と講師となる地域の方々が対話をしながら授業の大枠をデザインします。そして、その学びを校内にとどめず、地域の行事と結びつけることで、地域と保護者・児童が緩やかにつながる地域おこしも目指しています。金剛寺小の取組の中から、今回は「串戸の歴史」、「串戸の防災」、「野菜づくり」の紹介をします。

### 串戸の歴史

生活科や社会科と関連の深い課題です。

串戸のまち、歴史に関心を深めた16名の児童が、保護者と11



月15日（土）に自治協議会主催で行われた「串戸歴史ウォークラリー」に参加しました。かつて串戸は海だったことや、「宮内地区」「串戸地区」の関係などを知る座学の後、グループに分かれ史跡等のポイントを回りました。各ポイントでは串戸歴史文化協会や自治協議会の方々の詳しい説明もありました。関わった全ての方が、串戸の歴史にふれながら、笑顔でつながっていました。

### 串戸の防災

社会科との関連が深い課題で、多くの学校が扱っています。近年の様々な災害発生の中で、防災力を高めることは重要な取組課題です。

11月28日（金）には、串戸地区自主防災会が防災教室を地域、保護者の方も招いて実施しました。教室は最初に、令和6年能登半島地震以降、継続して石川県珠洲市でボランティア活動を行っておられる阿品地区在住の小早川さん（上段写真右）から「共助」の大切さや想いについて聴きました。次に、自主防災会の防災リーダーの方々が防災グッズの知識を深めるゲームを行い、簡易トイレの使用方法も体験しました。そして最後に5年生が学びを進めた串戸地区の避難体制等の発表をしました。

〈裏面へ続く〉



防災教室の3つの内容は、「実際にやっておくこと」「知っていることをどう生かすかを明らかにすること」、「誰とでも協力できる習慣を身につけること」の重要さにふれていきました。

自治協議会の梶川会長は閉会の挨拶で、「防災の視点でも、顔の見える関係づくりをつくっていきたい。その一步目が日常の挨拶だと思っている。児童の皆さんには、是非、今日学んだことを家庭でも話し合ってほしい。」と児童に語りました。児童の学びを地域の方と創っていく協働活動の価値を改めて感じる防災教室でした。

### 野菜づくり

生活科や理科と関連の深い課題です。

児童は、関心がある夏野菜を選び、学びながら育てます。収穫した野菜は、持ち帰るだけでなく、市民センターで開かれる「串戸ワイワイ土曜朝市」で児童自身が保護者と販売しました。(右写真)

自分が育てた野菜を地域の方にも食べてもらえる喜びを児童は感じていました。



### 七尾中学校の学校園

七尾中学校では、より体験的な学びを生徒に提供するために、学校北側の荒地を畑にすることを考えました。

当初は学校だけで作業を進めましたが、草を刈るだけではなく、埋まっている大量の石等を取り除く作業等、大変困難だったため、コミュニティの方々に相談をしました。

その結果、荒地の整備から土作りまで、地域の方々の支援を受け、昨年度から、畑では、特別支援学級の生徒が教育課程に位置づいた学びとして野菜を栽培をし、畑の一部では、技術家庭科の教科学習で使われています。今年度の学校運営協議会で、年度当初より生徒が栽培を積極的に行っている報告が出された際、委員から、「生徒が作った野菜をせっかくだから朝市で販売したらどうか」という提案がありました。

提案を受け学校では、生徒とともに販売に向けて会場の掲示（右写真）を準備し、「串戸ワイワイ土曜朝市」で収穫した大根はコミュニティの方が販売（上写真）しました。生徒は、やりがいとともに、栽培から販売に至る過程の学びも深めることができます。



廿日市市立七尾中学校  
ぎんが学級による  
大根の栽培・販売

1本 100円

昨年度、川本宏先生が荒地を開墾して、広大な畑を作りました。そこに「ぎんが学級」の生徒達を中心に、様々な野菜を栽培しています。

ぎんが学級の生徒たちで、大根の種を植え付けました。

